

## S5-追加報告

## 診療ガイドラインに含まれる鍼灸の調査

○若山 育郎<sup>1,2</sup>、柳澤 紘<sup>1</sup>、山下 仁<sup>1</sup>、篠原 昭二<sup>1</sup>、川崎 寛二<sup>2</sup>、  
龍神 孝慶<sup>2</sup>

1) 日本東洋医学会鍼灸学術委員会 2) 関西医療大学

【目的】世界的には1990年代以降、また日本では2000年代以降、多くの診療ガイドライン(CPG)が作成され、その中には鍼灸を含んでいるものも少なくはない。しかしながら、鍼灸の推奨グレードに関しては最新のエビデンスに基づいておらず、鍼灸の効果が過小評価、過大評価されているものが少なくないのが現状である。そこで、我が国のCPGのなかで、鍼灸はどのように取り扱われているかを調査する。

【方法】東邦大学医学メディアセンター書架にある診療ガイドライン書籍およびMinds医療情報サービスデータベース、東邦大学・医中誌診療ガイドライン情報データベースを対象とし、「鍼」または「鍼灸」が含まれているCPGを抽出した。抽出に際しての除外基準としては1)外国のCPGの翻訳、2)旧バージョンCPG、3)患者向けCPGとした。また、推奨度が記載されているCPGと記載されていないCPGに分類し、記載されているものに関してはその程度について明らかにした。

【結果】東邦大学医学メディアセンター書架にある診療ガイドライン書籍429件中15件、Minds医療情報サービスデータベース164件中2件(重複は除く)、東邦大学・医中誌診療ガイドライン情報データベース2506件中5件(重複を除く)の合計22件(21疾患)が抽出された。鍼灸の推奨度が記載されているのは13件あり、鍼灸を行うよう勧められるもの6件、行うよう勧めるだけの根拠がないもの7件、行うべきではないもの1件であった(一部重複)。推奨度が記載されていないものは9件であった。

【考察】WHOは1997年に鍼灸の適応疾患49疾患を草案として発表した。しかしながらエビデンスに基づいていないという批判があったため、2002年に「Acupuncture: Review and analysis of reports on controlled clinical trials」を刊行し、28疾患については、RCTをもとにその効果が実証されているとした。また、Ishizakiらの全国的調査では、鍼灸が利用されている主な疾患は筋骨格系疾患をはじめとする9疾患であった。今回抽出したなかの「鍼灸を行うよう勧められる」6CPGのうち、それらと共通するのは頭痛、腰痛、テニス肘などであったが、これらレビューや調査はそれぞれ2002年、2003年のデータであるため、現時点においてもなおエビデンスに基づいているかどうかはさらに検証が必要である。

## 略歴

1981年 和歌山県立医科大学卒業  
1987年 和歌山県立医科大学助手  
1990年 米国国立衛生研究所(NIH) Visiting Fellow  
1993年 白卯会白井病院神経内科 医員  
1997年 関西鍼灸短期大学(現 関西医療大学) 教授  
現在に至る